

公告 昭 33. 4. 9 出願 昭 31. 4. 10 実願 昭 31-17939

考案者	柳 沢 明	東京都足立区梅島町1 栗林写真機械製作所内
出願人	栗 林 敏 夫	東京都足立区梅島町1

(全4頁)

レンズシャッターに内蔵したMX閃光同調装置

図面の略解

第1図は本案M接点機構のセット前の状態を示す平面図、第2図はセットレバーを廻動し、セットされた状態を示す平面図、第3図はリリースレバーを作動しセットレバーは停止状態にあるが、扇形歯車のみ廻動したる状態を示す平面図、第4図はセットレバーが作動し羽根が開いた状態を示す平面図、尚切換レバーは図面の簡略上鎖線にて示す、第5図は切換レバーをM位置よりX位置に移動し、セットレバーをセットする前のX接点レバーを示す平面図。

実用新案の説明

本案はMX接点の同調機構にして、図面を参照するに1はセットレバーにして枢軸2に巻き付けられたバネに依つて常に右回転方向に押へられて居る。3はセットレバー1の規定位置に設けられた串、4は切欠溝、5は扇形歯車にして、枢軸6に巻き付けたバネに依り常に左回転方向に押へられて居りその先端は小歯車7と齧合ひ、星形歯車8、アンクル9により、廻動を制御されて居る10は規定位置に設けられた扇形歯車串、11は扇形歯車突起部、12は扇形歯車5末端に連結されたる爪で扇形歯車立起部13をバネにより圧接し、セット時、側面がセットレバー串3と衝合し扇形歯車5を右廻動させるが、リリース時、後側面よりの衝合には爪12のみ左廻動しバネにより復元する。

14は制動片にして二又に分れ、枢軸15に巻き付けられたバネにより左腕16は扇形歯車突起部11を圧接して居る。17は右腕の立起部、18はM接点レバーにして枢軸19に巻き付けられたバネに依り、左回転方向に押へられ、先端切欠部20の端面を上部に曲折しM接点に於けるセット時に於いて、扇形歯車串10がM接点レバー18の下面を安易に通過出来る様にする。21は内側面に設けた凹部、22は

摺動面、23は突出部にして接片24と絶えず接触して居る。25は切換レバーにしてX接点時に於いてM接点レバー18と扇形歯車串10との関係をなくす為、突出勾配部26がM接点レバー18下面に入り該M接点レバー18を扇形歯車串10以上の高さに支承し、扇形歯車串10と、M接点レバー18下面との接触はなくなる。27は抑止レバーにして枢軸28に巻き付けたバネにより右廻転方向に押へられ同一枢軸28上のリリースレバー串30を圧接しセット完了後は扇形歯車5の突出端31と係合し廻動を抑止する。32は接点。

以上の構造によりセットレバー1の左廻動は串3が爪12を衝合の外れる迄押進し、爪12と連結されたる扇形歯車5を右廻動させ、扇形歯車串10はM接点レバー18下面と接触しながら凹部21に至り抑止レバー27と扇形歯車突出端31は係合し、扇形歯車突起部11は制動片左腕16との離間によつて、右腕立起部17が切欠溝4に落込みセットは完了する。(第2図)

リリースレバー29の左方向の廻動は、串30に依り抑止レバー27と扇形歯車突出端31との係合を外す為、扇形歯車5はバネの作用に依り左廻動し扇形歯車串10の押進に依り、M接点レバー18は枢軸19を中心とせる廻動となり突起部23は接片24を接点32と接触させ、扇形歯車串10はガバナー機構に依り遅速され摺動面22を一定時間切欠部20と衝合する迄摺動する。(第3図)

扇形歯車串10と切欠部20が衝合する寸前に扇形歯車突起部11は左腕16と衝突し右腕立起部17と切欠溝4との係合は外されセットレバー1は右方向に廻動し、羽根を開く(第4図)、次にX接点機構に於て、33は羽根を開閉させる開閉板、34は開閉板33に固植されたる串、35はX接点レバーにて枢軸36に巻き付けられたバネに依り絶えず右方向

に押されて居る。

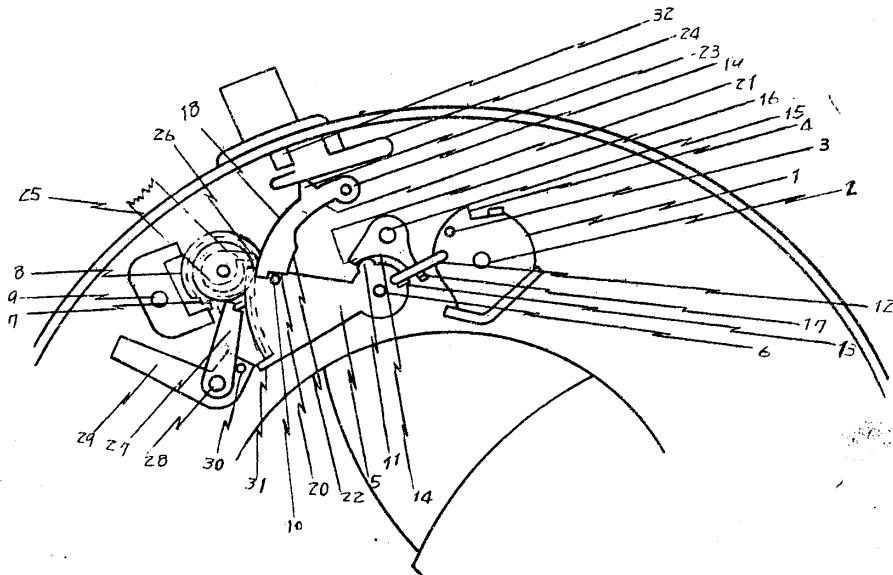
今切換レバー25を廻動させX接点位置に移すと
 切換レバー突出勾配部26がM接点レバー18下面に
 入り扇形歯車5の串10以上の高さにM接点レバー
 18を支承する為、扇形歯車5とM接点レバー18下
 面との接触を断ち、M接点は無作用状態となる。
 ここでセットレバー1をセットした後リリースレ
 バー29を作動させると扇形歯車5及びセットレバ
 ー1の作用に依り開閉板33は右方向に回転し、開
 閉板33に固植された串34とX接点レバー35とが衝
 合し、該X接点レバー35は枢軸36を中心として左
 廻動し接片24を押圧する為、接片24と接点32とが
 接触しX接点となる。(第5図)従来のレンズシヤ
 ツターに於ける、M接点の遅延機構に於いては組
 立に際し、数カ所の微妙な調整を必要とし、M接
 点の際にはセットレバー及び接点用遅延機構の二
 つをセットさせる必要があつた。又M、X切換に
 際しても数カ所の関係部所を切換、制御させる必
 要があつた。

しかるに本案に於いては調整が安易でセットレ
 バーをセットするだけで各接点としての目的を達
 する事が出来、又、M、Xの切換に際しても単に
 1カ所(M接点レバー18)の制御のみにて終ると
 云ふ効果がある。

登録請求の範囲

図面に例示せる如く、閃光同調用扇形歯車5の
 規定位置にそれぞれ串10、扇形歯車突起部11、セ
 ットレバー1の串3に衝合する爪12を設けリリース
 時に於いて扇形歯車5の回転により前記串10と
 摺動押圧するM接点、接触用レバー18を枢着し、
 M接点接触後、更に前記扇形歯車突起部11により
 制動片14の右腕立起部17とセットレバー1の切欠
 溝4との係合を外す様にM接点機構を設け切換レ
 バー25をX位置に移した際切換レバー突出勾配部
 26がM接点接触用レバー18の下面に入り接点レ
 ーを支承しX接点とする様にしたレンズシヤツタ
 ーに内蔵せるMX閃光同調装置の構造。

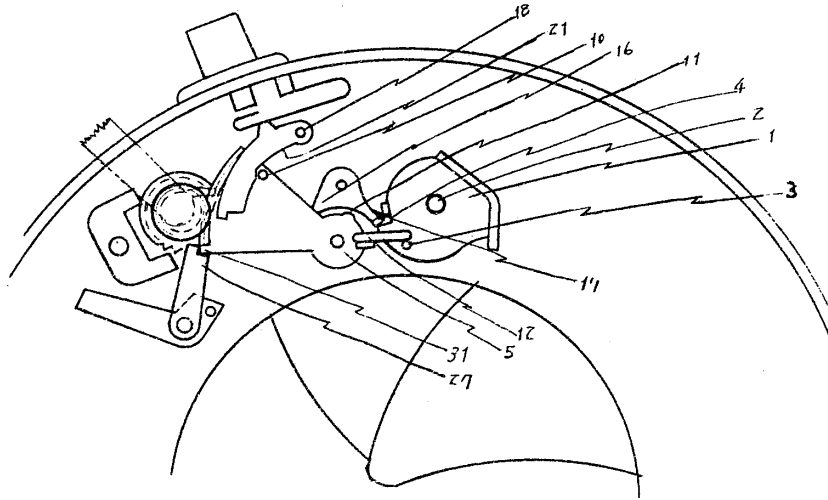
第1図



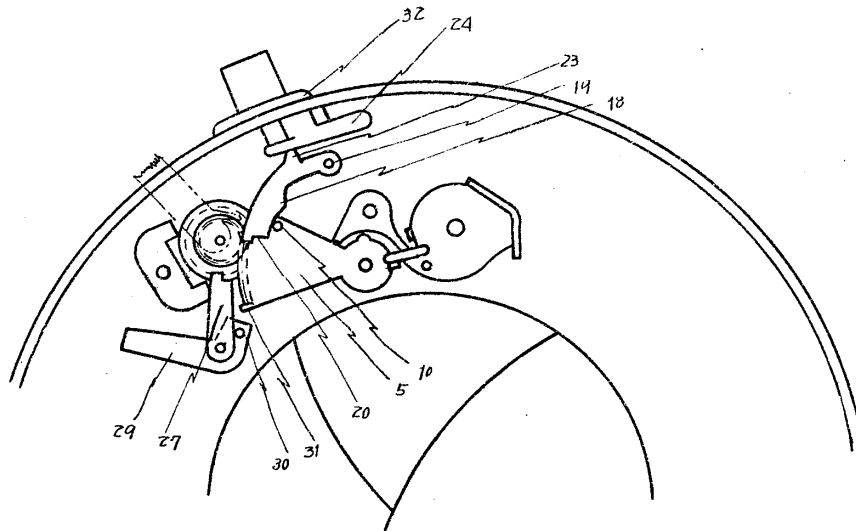
(3)

實用新案出願公告
昭33-5057

第2圖



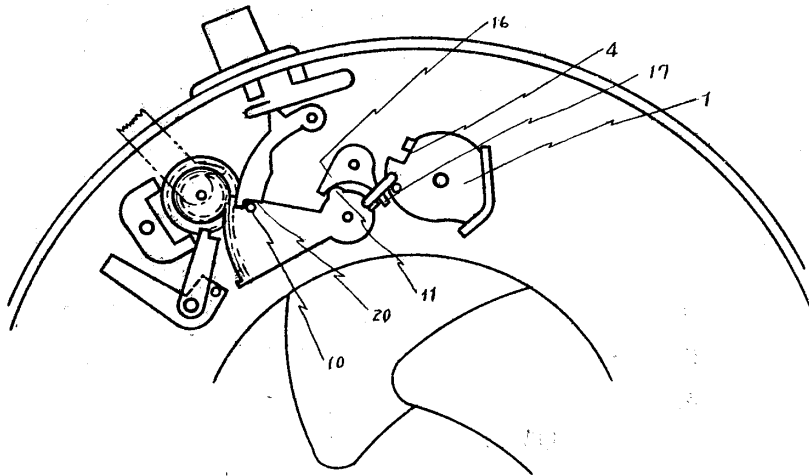
第3圖



(4)

實用新案出願公告
昭33—5057

第4圖



第5圖

